

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人

伊東 忠彦

様

あて名

〒 150-6032

東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号
恵比寿ガーデンプレイスタワー32階

PCT

国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日

(日.月.年)

01.03.2005

出願人又は代理人
の書類記号

SG04002PCT—

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2004/018379

国際出願日

(日.月.年) 09.12.2004

優先日

(日.月.年) 25.12.2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. 7 A63F 9/30

出願人 (氏名又は名称)

株式会社セガ

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

09.02.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

宮本 昭彦

2 T

9 2 2 6

電話番号 03-3581-1101 内線 3265

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/018379

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

様式 PCT/ISA/237 (第 I 欄) (2004 年 1 月)

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-19	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲	9	有 無
	請求の範囲	1-8, 10-19	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-19	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

- 文献1 : JP 10-179926 A (コナミ株式会社) 1998. 07. 07
 文献2 : JP 2003-144740 A (株式会社カプコン) 2003. 05. 20
 文献3 : 月刊アミューズメント・ジャーナル 2002年11月号, 2002. 10. 30,
 第2巻, 第11号, 通巻019号, 第120頁
 文献4 : JP 8-157109 A (株式会社リコー) 1996. 06. 18
 文献5 : JP 2001-199111 A (セイコーインスツルメンツ株式会社) 2001. 07. 24

請求の範囲1-5に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献1及び文献2より進歩性を有しない。

上記文献1には、メダルシュートにより投入されメダル滞留部(1d)にあるメダルが回収シュート(17)及び払い戻しシュート(18)のいずれかかに振り分けられ、回収シュート(17)に振り分けられたメダルは上部宝箱(10)に蓄積された後に所定の条件により排出され、払い戻しシュート(18)に振り分けられたメダルは払い出し口(16)に払い出されるゲーム装置が記載されている。

上記文献1に記載されたゲーム装置は、物品であるメダルをメダルシュートから投入するものであるが、物品を取得するゲームとして、プレーヤが操作入力部を操作することにより収容部の物品を取得して所定の移送位置に移送する物品移送部を用いるものは上記文献2に開示されており、また、請求の範囲1において「物品移送部」と「振り分け手段」とが必ずしも一体的に構成される必要がないことを考えれば、文献1におけるメダルをメダルシュートから投入する構成を文献2に記載されているプレーヤが操作入力部を操作することにより収容部の物品を取得して所定の移送位置に移送する物品移送部を用いる構成に変更することは、当業者にとって自明のことである。

また、上部宝箱(10)から排出されるメダルを直接払い出し口に排出するか、メダル滞留部を介して排出するかは、当業者が適宜設計しうる事項にすぎない。

請求の範囲6に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献1及び文献2より進歩性を有しない。

文献1記載のゲーム装置において、物品であるメダルの振り分けが行われるメダル滞留部をどのような形状のものとするかは当業者が適宜設定しうる事項である。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2. 欄の続き

請求の範囲 7 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 乃至文献 3 より進歩性を有しない。

文献 3 の右中欄「ビッグスウィートランド（仮称）」の説明には、「景品が落下する際にテーブル先端のチャッカーに触れるとアーム部のルーレットが回転」と記載されており、文献 1 記載のゲーム装置において、物品との接触により作動するセンサスイッチの検出動作をトリガとして動作情報を生成するように変更することは、当業者にとって自明のことである。

請求の範囲 8 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 乃至文献 3 より進歩性を有しない。

ルーレットとして、数配置されたランプが順次に点灯して周上を光が走るように見せるランプリングを備え、ランプリングの点灯位置が所定の位置にある場合にあたりとするものは例をあげるまでもなく周知のものであり、文献 1 記載のゲーム装置において、ランプリングを用いて動作情報を生成することは当業者にとって自明のことである。

請求の範囲 9 に記載された発明は、国際調査報告に引用されたいずれの献にも記載されておらず、当業者にとって自明のものでもない。

特に、コインが投入されず空席となっているプレーヤの物品移送部を排出手段の動作後にプログラムにより自動運転して第 1 の蓄積手段への物品の補充を行う点は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明のものでもない。

請求の範囲 10 - 11 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

文献 1 【0039】に記載されている搬送部の構造は、ローラの軌跡の半径を可変とするものではないが、文献 2 【0051】段落には「プッシャー 31 についても、その往復移動量やスライド位置を管理者が自由に調整できるものとしても良い」と記載されており、文献 1 記載の搬送部において、ローラの軌跡の半径を可変とすることは当業者にとって自明のことである。

請求の範囲 12 - 15 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

蓄積手段の構造については、文献 1 【0044】～【0053】段落を特に参照されたい。

請求の範囲 16 - 18 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

モータの正転及び逆転により異なる対象箇所を切り替えて動作させる機構は周知（例えば、文献 4 及び 5 参照）のものであり、文献 1 記載のゲーム装置において、蓄積手段の回転と傾斜を 1 つのモータで制御するよに変更することは当業者にとって自明のことである。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2. 欄の続き

請求の範囲 19 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

文献 2 【0049】段落には「バケット 33 を傾斜させる際には、プッシャー 31 の動きを一時的に停止させるようにしても良い」と記載されており、文献 1 記載のゲーム装置において、排出手段による物品払い出し動作の処理中に物品の取得にかかる通常動作を停止することは当業者にとって自明のことである。

第Ⅶ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

(1) 請求の範囲 6 には「物品の落下経路に・・・」と記載されているが、物品がどこから落下するものであるのか不明瞭である。

(2) 請求の範囲 9 には「コインが投入されず空席となっている」と記載されているが、コインがどこに投入されるのか不明瞭である。また、コインが投入されないことと空席であることとの間にどのような関連があるのか不明瞭である。

(3) 請求の範囲 12 には「第 1 の蓄積手段はジャックポットトレイからなり」と記載されているが、ジャックポットトレイの定義がどのようなものであるのか不明瞭である。

請求の範囲 13～18 についても同様。

(4) 請求の範囲 15 には「ジャックポットトレイが収納時において」と記載されているが、なにをもって収納時とするのか不明瞭である。

(5) 請求の範囲 19 には「物品の取得にかかる通常動作」と記載されているが、どのような動作を通常動作とするのか不明瞭である。